

ラオス北部の水田村における 土地相続と経済的格差の継承

富田 晋介 氏

(名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院)

日時

2022年12月23日(金) 17:00～18:30

開催方法

対面(京都大学本部キャンパス
総合研究2号館4階 AA447会議室)
とZOOMのハイブリッド開催です。

下記サイトより事前にお申し込みください。

<https://forms.gle/ZUvQxEzr3eUSaWaZ7>(当日12:00締め切り)



要旨

東南アジア大陸山地部では、ムアンと呼ばれる首長を中心とした階層的な社会が発展してきたと言われている。水田水稲作による余剰生産および安定した生産がムアンの経済基盤を強固なものにし、首長を育て、そして山地社会へも政治的な影響を及ぼしてきたとされている。水田のような集約的な農業を行う社会では、親から子への土地などの物質的資産の継承によって、生まれながらの経済的格差が生じている。ムルダーら(2010)が提唱するモデルによれば、世代を経るにつれ、この格差がより大きくなっていく。格差が拡大し固定化した結果、社会は階層化して支配層を生んだとされている。一方で、経済的格差がどの程度次世代に継承されるのかについては、検討の余地がある。今回紹介するラオス北部の水田村一村では、理念的にはすべての息子が水田を相続するが、乳幼児死亡率が高かったことを一因として、相続人の人数は世帯間でばらつきがあった。よって、多くの水田をもつ世帯の子が必ずしも多くの水田を相続できるとは限らないことが予想される。本報告では、ラオス北部の水田村一村における、過去40年間の水田の相続と人口データをもちいて、相続の実態について紹介したあと、世帯における経済的格差の継承について検討する。